

第3 インフルエンザ

1 感受性調査

(1) 調査時期

原則として7月から9月(予防接種実施前)が望ましいが、前シーズン(2010/11シーズン)のインフルエンザの流行が終息していることが確実な場合は、7月以前でも可とする。ただし、5月以降であることとする。また、当該シーズン(2011/12シーズン)のインフルエンザの流行が始まっていないことが確実で、かつ当該シーズンのインフルエンザワクチンの接種を受けていないことが確実な場合は、9月以降でも可とする。ただし、10月31日(月)以前であることとする。

(2) 調査客体(被験者)及び地区の選定

当該都道府県につき1地区を選定し、0~4歳、5~9歳、10~14歳、15~19歳、20~29歳、30~39歳、40~49歳、50~59歳、60歳以上の9年齢区分を設け、各年齢区分より22名ずつ計198名を選定する。

(3) 調査事項

客体(被験者)から採血し、血清中の亜型別インフルエンザ赤血球凝集抑制(HI)抗体価を測定するとともに、システム上に掲げる事項について調査する。本年度の測定抗原は下記の4株とし、2011/12シーズンのワクチン株であるア、イ、ウについては市販のHA抗原を使用し、エについては感染研インフルエンザウイルス研究センター第一室より配布する不活化抗原を使用する。

なお、イのH3については、0.75%モルモット血球を使用する。また、赤血球凝集(HA)試験およびHI試験時には、血球との反応時間を1時間とする。H1およびBについては0.5%ニワトリ血球を使用し、血球との反応時間は45分とする。H1、H3、Bいずれにおいても血球との反応はNA活性を抑制するため4で行う。

抗体価の測定に際し、ア、イ、ウについては市販のHI抗血清を標準血清として用い、必ず検証し、検体の結果とともに標準血清の結果についても報告する。エについては、標準血清は使用しない。なお、抗体価の測定に関する詳細は、感染症流行予測調査事業検査術式(平成14年6月)の「第二章 インフルエンザ」に準じる。

ア A/California(カリフォルニア)/7/2009(H1N1)pdm09

イ A/Victoria(ビクトリア)/210/2009(H3N2)

ウ B/Brisbane(ブリスベン)/60/2008(ビクトリア系統)

エ B/Wisconsin(ウィスコンシン)/1/2010(山形系統)

(4) 検査成績等の報告

検査成績等の報告については、インフルエンザウイルスの抗体保有状況を流行シーズン前に明らかにするために、それまでに得られた測定結果を検体番号、年齢、

性別とともに、速報用として 10 月 31 日（月）までに「感染症サーベイランスシステム」により所定の事項を登録するか、あるいはエクセルファイル形式にて感染研感染症情報センター第三室宛に送付する（電子ファイルのみ：電子メールにファイル添付あるいは CD-R 等の電子媒体の送付とする。送付先の住所、メールアドレス、電話番号等は本実施要領 4 頁を参照）。また、すべての検査成績判明後、12 月末日までに「感染症サーベイランスシステム」により所定の事項を登録する。